

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社 さわやか門前		
事業所名	グループホーム浜		
所在地	佐賀県鹿島市浜町乙2591-1		
自己評価作成日	平成26年11月13日	評価結果市町村受理日	平成27年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成26年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人一人がゆつくり、楽しく、穏やかに生活されるように、相手の気持ちを良く聴いて支援している  
 ○月に一度か二度のピクニック(波佐見ムック、嬉野キハコ、庭木ダムの桜、歌垣公園、大村菖蒲園、嬉茶楽館キンサランカン、海道しるべ、佐賀博物館、佐賀森林公園、佐賀神社、文化祭、ピオ見学など)  
 ○地域の方との「認知症を知る会」を開催。  
 ○書作、映画、カラオケ、カルタ、計算ドリルなどの日中活動。  
 ○一月ごとの写真入りおたより。  
 ○祐徳民謡会やカラオケ同好会の方、祇園祭で地域の小中学校生たちの踊りをみて楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは伝統ある酒蔵の静かな佇まいの町並みに溶け込むように建っている。毎月の外出では入居者の希望をとって県内外へドライブに出かけられている。「認知症を知る会」の研修を地域の方と開催して、地域での認知症の理解や支援に活かせるように取り組まれたり、年に1回落語家を招き、地域の皆さんを招待して落語を楽しむなど、地域との交流も盛んである。室内は、昭和の懐かしい照明や時計、飾り付けなど、入居者が馴染みのある落ち着いた雰囲気を作られているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで職員の意識を統一し、実践に繋げている。	理念の事務室への掲示、ミーティング時の資料掲載、年1回の理念実践に向けた話し合いを行い、職員の理念に対する理解が深まるように努められ、入居者の介助に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班の方と月一回の溝掃除に参加している。隣近所の方より、野菜を頂いたり、いちご狩りをしたいちごをおみやげに配ったりした。	職員が地区行事に参加されたり、グループホームのイベントには地域の方を招待されたりして、地域との交流に積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年浜地区の公民館を借り、地域包括支援センターと共に、「認知症サポーター養成講座」を開いている。(平成26年3/19湯の峰公民館、3/20家督屋、6/26野島公民館、9/24中牟田公民館、9/25新町公民館、)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、老人会会長、民生委員、消防団、地域包括支援センターの方と、ホームでの状況を報告したり、今後の街作りの話しや避難訓練の話しや成年後見制度の話しなどを行っている。	2ヶ月に1回定期的に開催され、会議ではグループホームの状況報告が行われ、問題点や要望等について活発な意見が出され、施設の運営に活かされている。しかし、家族の参加が少ない状況にある。	開催曜日の検討や会議の趣旨の説明など、家族も定期的に参加されるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が社会福祉協議会の安心サポートを利用され、ホームでのおたよりを持参したり、包括支援センターの方と共に、「認知症サポーター養成講座」の開催に向けて協力し合い、取り組んでいる。	普段から市担当者への対応問い合わせや、報告を行ったり、年数回の講座開催を共同で行うなど、連携に努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待の研修会に参加し、全職員で話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	グループホーム協会の虐待研修会に参加するなどして職員の意識向上に努められている。現在、身体拘束の対象の方がおられ、拘束に頼らない工夫を検討しているが、検討会の記録は未整備となっている。	身体拘束の解除に向けた、検討会の記録を整備し、今後も、拘束を必要としない介助に努められるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めている。入居者の行動を見守り、必要な時は付き添い対応している。ベッドからずり落ちる可能性がある方は、ベッド柵をすることを家族に了解を得、署名捺印をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられた事もあり、司法書士の方に制度について学ぶ機会をもち、家族にも話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っているつもりではあるが、不十分な点、疑問点はその都度尋ねてもらえるように、話しやすい関係を保っていけるように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一回の家族会を計画してきたが参加者が少ない為、次回からはそれぞれの家族に都合が付く日を聞き、一家族ごとにホームでの様子やケアプラン、ホームの考え方をゆっくり話しあえる時間を作ろうと考えているが実行できていない。	毎月写真入りの「お便り」を送付して入居者やホームの状況を家族へ伝え、ホームへ訪問された時は必ず話をして、意見が聞けるよう家族との関係作りに努められている。今後は、よりゆっくり話し合える時間作りを検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見などがあつた時は、随時聞くように心がけ、管理者や職員全体で話し合い協議していくようにしている。	職員からの意見を尊重するように努め、普段から意見の出やすい雰囲気作りを行われている。月1回の職員会議時には、活発な意見や要望が出されており、ホームの運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがいろんな研修に出来るだけ参加できるように計画したり、それぞれの希望に出来るだけ合わせた勤務を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろんな種類の研修に参加されるように勤務表に入れたり、希望があつた研修には出来るだけ参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会(鹿島、太良、塩田)6箇所集まり、月一回いろんな勉強会をしたり、それぞれの入居者と運動会をしたりと、毎年事務局を交替し、取り組みたい内容を話し合いで決めて実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から今までの生活歴、性格、趣味など出来るだけ多くの情報を聞き、現在困っていること、不安なこと、要望を聴き職員と話し合いながら安心した生活を送られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から今までの状況や、これからの要望などを聴き、ホームとしての説明もし、信頼していただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言動や行動に見極めが難しいと思われることに対しては、家族へ確認したり、全体ミーティングなどを利用して、協議し支援の方向性を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢だったり、体も思うように動けなかったりと、ついお客様にしてしまっているが、出来ることを少しずつしてもらい、職員は黒子になり共に生活する場にするにはどうしたらいいか思案中である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が職員に言えず家族に話したり、家族に言えないことを職員に話したりされ、家族の面会時や電話で情報交換し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来安いようにしたり、本人が電話をかけやすいようにしたり、会いたい人に時々会えるように配慮し、本人の気持ちに寄り添い支援に努めている。	知人や友人の訪問時には職員が対応され、訪問し易い雰囲気作りに努められている。入居者の希望を聞いたり、家族から聞き取りをして、定期的にお地蔵さんに参りに行くなど、馴染みの場所へ訪問されている。以前の習慣や関係が継続できるように努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格などを考慮し、食堂のテーブルの位置を月初めに変えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が移動されたところへ面会に行くとしても喜ばれた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を出来るだけ聴くようにし、生活しやすいように努めている。	入居者や家族との普段の会話から希望や意向を聞き取られている。また、職員会議で情報を共有し、可能なものは実施され、入居者の立場に立った支援を行うように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生い立ちを家族に記録してもらい、性格などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の趣味を続けられるように支援し、必要な方にはマッサージを、介助が二人必要であれば二人で介助したりと、その方の状態を考え対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのミーティングでの話し合いや、家族の意見も聴きながら計画を作成していくように努力している。	毎月のモニタリング時に職員で見直し、検討が行われている。6ヶ月ごと、もしくは必要時に随時更新され、本人、家族、関係者の意見を取り入れ、計画の作成をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践やその他の日々の介護記録を作成し、ミーティング等で職員間の話し合いをもとに、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個の利用者の買い物希望に合わせて買い物に行ったり、文化祭への作品出品や合同運動会の行事に参加している。また、歯科健診後の治療のために、必要な利用者には受診支援を続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民謡会の慰問や、運営推進会議のメンバーの一人がカラオケ同好会の方と共にホームでカラオケを楽しんだり、落語会や避難訓練の時には隣保班の方に参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、家族に説明し、かかりつけの病院へ定期受診を依頼し、緊急止むを得ない場合や、家族がおられない利用者には職員が付き添い受診している。	家族の協力によるかかりつけ医への受診やホームによる受診支援が行われている。訪問看護や協力医は24時間対応可能で、電話相談の連携もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合面会に行き、病状を尋ねたり、家族が出来ない時は必要な物をそろえたり、洗濯物を交換したりと本人や家族と相談しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の面会時に看取りのあり方について話し合っている。	入居者や家族に、入居時や状態変化時に重度化や終末期ケア対応指針の説明が行われている。都度、意向の確認や主治医交えて話し合いをされ、出来る限りホームで暮らせるよう、看取りも含めて支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、AEDを使用した訓練を5/29浜新町公民館で19時から、消防署より指導を要請し、地域の方々と共に、実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災、水害等を想定した訓練を隣保班の方や、消防団の協力をお願いし実施している。	年に2～3回消防署や地域住民も参加された夜間想定火災避難訓練が実施されている。実際に屋外サイレンを鳴らしたり、地域住民の方に役割分担してもらったりなど、地域と連携した訓練がなされている。また、非常用食料も備蓄され、訓練時に使用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他入居者様に聞かれたくない内容等は、耳元で囁いたり、また居室にて話を聴いたりして気を付けている。	トイレ誘導時には、声の大きさに注意して誘導するなどして、入居者の人格を尊重した支援に努められている。研修会へも参加して、職員の意識向上に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの思いや希望を聴き、その都度対応し、時間がかかっても支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の一日の過ごし方がありますが、一人ひとりのペースに合わせ、個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服が汚れたり、季節に合わない服装をしておられる場合は、洗濯したり、季節に合った服装が出来るよう支援し、整髪も常に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者様に合わせて調理したり、後片付けなどは言葉かけし、参加できるようにしている。	正月のおせちや誕生会の特別メニューなど、季節のイベントに合わせた食事の提供が行われている。また、レストランやお弁当を持つての外出、家族も招待してホームの庭でのバーベキューなど、食事を楽しむ支援が積極的に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え食事作りをしている。摂取量の調整と水分量が不足しないように言葉かけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後の口腔ケアの言葉かけや支援をしている。歯科健診後、歯科医の指導でフッソ洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの言葉かけや誘導をしている。	入居者の排泄パターンをチェックした表を作成し、排泄時間帯を把握してトイレ誘導を行い、入居者が自立した排泄を行えるように努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないように、水分を多めに取ってもらったり、お薬を服用してもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はその日の体調や希望等を聴き行い、できるだけ気持ちよくお風呂に入っていたできるように心がけている。	浴室にはリフトが設置され、入居者や職員の負担にも配慮されている。週2～3回午後に入浴されている。入居者のペースや希望に合わせて、入浴日、時間、順番など変更し、支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望等があれば臥床してもらい、安心して眠れるよう室温など調節したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報はファイルし、いつでも確認できるように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの食生活の中で楽しかったことや好きな食べ物など聞き出して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行ってみたい昔の思い出の場所など本人から聞いて事前下調べをし安全確認をしてから支援している。	入居者の希望を聞き取り、毎月県内外へ希望の場所や、馴染みの場所へドライブに行かれている。天候の良い日には、庭での日光浴やおやつを楽しまれている。家族協力による散髪など支援の外出も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングセンターやピクニックなどで記念品になるものや好きなお弁当などを買う時に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀はがきやお便り、暑中見舞いの書などを書かれるときに支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはいつもリラックスできるような清潔にし、整理整頓、清掃し、ホーム内には生花等を利用者様と一緒にいき、塗り絵なども一緒にいき楽しんでいる。	室内は、昭和の懐かしい雰囲気が漂う照明器具や時計、装飾が行われている。廊下には休憩して雑談できるイスや談話室など、好きな場所で、過ごせる配慮もなされている。壁には、表装にした入居者の書が作品が飾り付けられるなど、居心地よく過ごせる環境作りが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	月に一度の席替えをし誰とでもゆっくりお話ができるように、又ソファや窓辺に椅子を提供し、ゆっくりとした時間が過ごせるように場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様の意向を聴き必要なものとか利用者様が使い慣れたものなどを置き、極力心地よく過ごされるようにしている。	入口には手作りの表札が掛けられ、居室には昔から使われていたタンスなど馴染みのものが置かれている。心地良く過ごせるように入居者の好みに合わせた居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室などはわかりやすくドアに表示し、居室には利用者様の名前を書き、利用者様の書作品を飾り、自分で行けるようにしている。		